人とともに 地域とともに
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

令和　８年　５月　29　日

報道機関　各位

若手総合診療医の定着率 88.1％を達成
島根発の教育モデルが地域医師不足解消の成功例として国際誌に掲載

◆本件のポイント

・離島・へき地を含む島根県で、若手総合診療医定着率 88.1％を達成
・オンラインネットワークにより、地域の医師の孤立を防ぎながら医師を育成するモデルを確立
・総合診療領域の世界トップジャーナル「JGIM」で高く評価

◆本件の概要

島根大学医学部附属病院総合診療医センターは、県内全域の医療機関をオンラインで結ぶ独自の教育ネットワーク「Neural GP Network」により、離島・へき地を含む島根県における若手総合診療医の定着率 88.1％という高い定着率を達成しました。この取り組みをまとめた原著論文が、総合診療領域の世界トップジャーナル『Journal of General Internal Medicine (JGIM)』に掲載されました。全国の医師偏在問題の解決に繋がる画期的な成果です。

◆詳細

【背景】

急速な高齢化が進む日本において、地域の患者を総合的に診ることができる「総合診療医」の確保は急務です。しかし、地方や過疎地域では、若手医師が「専門的な指導者がいない」「同世代の医師と交流できない」といった精神的・学術的な孤立感から、地域に定着しにくいことが全国的な課題となっていました。

【取り組みの内容】

当センターは、この孤立を防ぐため、県内の 17 の連携医療機関をデジタルインフラ（Slack や Zoom による Virtual Office）で繋ぐ広域ネットワーク「Neural GP Network」を構築しました。これにより、若手医師は遠方の過疎地域で診療を行いながら、大学の専門医からリアルタイムで指導を受けたり、離れた地域の同期と症例について相談したりできる「分散型・学術統合型」の教育環境を実現しました。

【成果と社会的意義】

本ネットワークプログラムの開始（2018 年）から 2025 年度までにこのネットワークに参加した総合診療専攻医 42 名のうち、現在 37 名が島根県内の医療機関に定着しています。直近の全国調査データ（2024 年発表の疫学研究）では、日本のへき地（無医地区等）に赴任した医師の定着率は約 50％程度と報告されており、島根県の 88.1％は極めて高い水準です。

この成果をまとめたプログラム評価論文が、総合診療領域の世界的なトップジャーナルである米国総合内科学会誌『JGIM』の「Innovations in Clinical Practice（臨床実践におけるイノベーション）」枠にて採択・公開されました。 これは、ただの現場の報告ではなく、「他地域でも応用可能な革新的モデル」として国際的に高く評価されたことを意味します。

人とともに 地域とともに
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

【今後の展望】

本取り組みは、厚生労働省の「総合的な診療能力を持つ医師養成拠点の形成事業」においても高く評価され、当センターは、本事業の実施機関として全国的なモデルケースとなる役割を期待されています。国は、地域医療の現場に総合診療医を確保するため、都道府県横断的に総合診療医センターを整備することを目的としています。 当センターは今後、この「島根モデル」が全国の医師偏在問題を解決するための成功事例として全国展開を進められるよう、国と連携してノウハウの横展開を進めてまいります。

◆論文情報

雑誌名：Journal of General Internal Medicine (JGIM)
論文タイトル：A Decentralized, Academically Integrated Training Model for Rural General Practice in Japan: A Descriptive Program Evaluation
著者：Kota Sakaguchi, Takeshi Endo, Yoshihiko Shiraishi, Makoto Kaneko, Takashi Watari URL：https://link.springer.com/article/10.1007/s11606-026-10469-5
（※本論文はオープンアクセスとなっており、どなたでも無料で全文をお読みいただけます）

◆本件の連絡先

※(at)は@に置き換えてください

【研究に関すること】

島根大学医学部附属病院総合診療医センター
助教　坂口 公太
E-mail：sakaguchi(at)med.shimane-u.ac.jp
Tel：0853-20-2217

【取材に関すること】

島根大学医学部　総務課企画調査係
メール：mga-koho(at)office.shimane-u.ac.jp
Tel 0853-20-2531

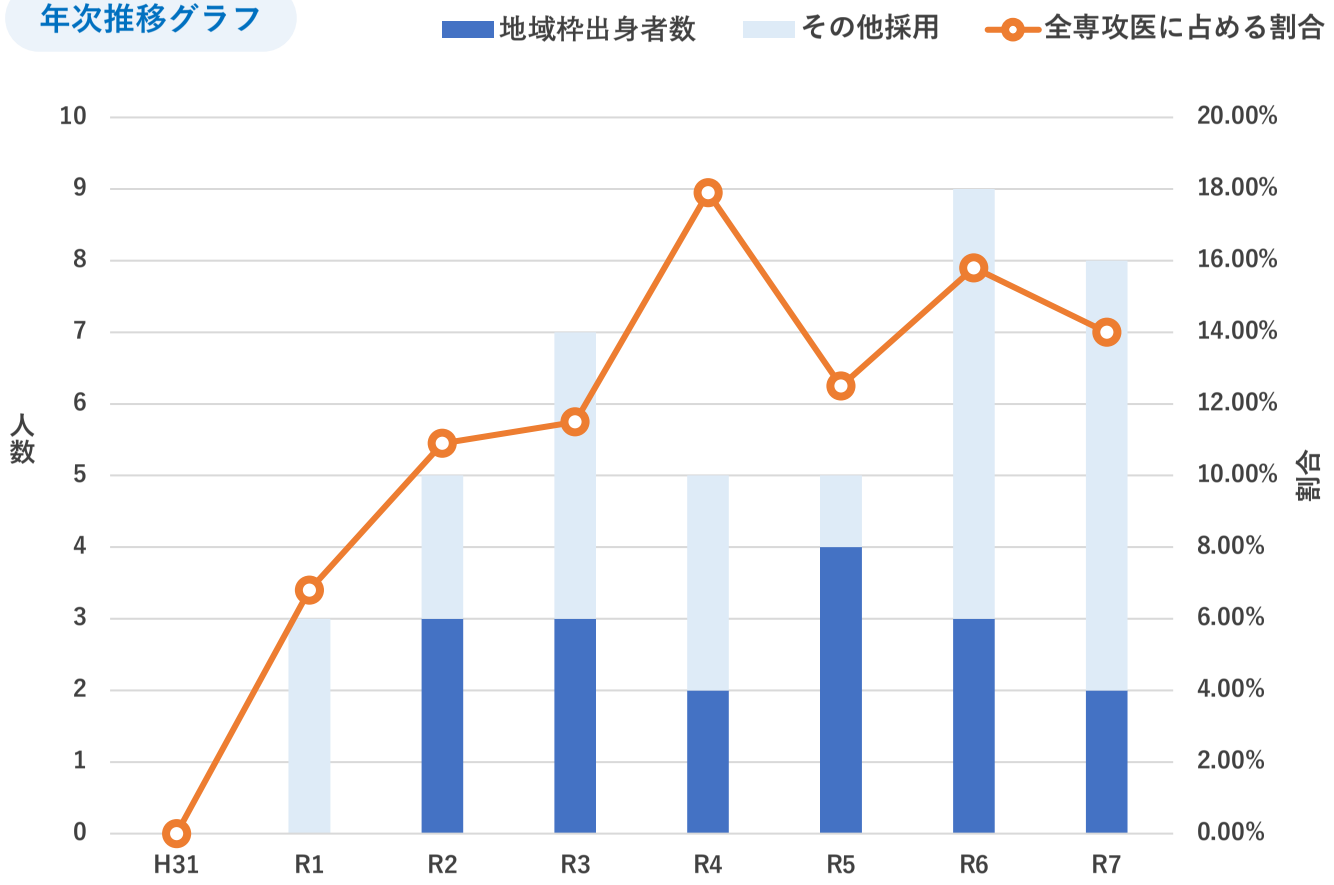
【添付資料：　■あり（2 枚）　□なし　】

総合診療専門研修プログラムの採用者数および地域枠出身者数

島根県における総合診療専攻医の年次推移

Data Trends

年次推移グラフ



詳細データ

年度	採用者数	うち地域枠出身者数	全専攻医割合
H31	0	0	0.0%
R1	3	0	6.8%
R2	5	3	10.9%
R3	7	3	11.5%
R4	5	2	17.9%
R5	5	4	12.5%
R6	9	3	15.8%
R7	8	2	14.0%

✓ **圧倒的な県内割合の維持**：
H31年度の0名からスタートし、直近では毎年5〜9名の採用をコンスタントに継続している。特に「全専攻医に占める割合」は10%台後半で推移しており、**全国平均（約2〜3%）と比較して5倍以上の高水準**を維持している。これは、島根のプログラムが医学生・研修医から「魅力あるキャリア」として選ばれている証左である。

✓ **地域枠医師のキャリアパス確立**：
R2年度以降、地域枠出身者の養成が定着している。卒前からの継続的な関わり（卒前臨床実習や卒後教育、進路支援等）により、**地域枠生が迷わず総合診療のみちを選択できるルートが確立**された。

出典）　島根県 地域医療対策関係資料、島根大学医学部附属病院 総合診療医センター集計

※ 地域枠等とは、島根大学（地域枠、緊急医師確保対策枠、県内定着枠、学士地域枠）、鳥取大学（島根県枠）および県奨学金貸与者を指す。

令和7年度の成果①：養成した人材の圧倒的な県内定着と地域還元

参加者の基本属性および定着の成果 (2018–2025)

Retention & Impact

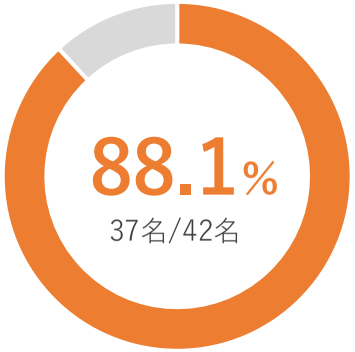
参加者の基本属性

項目	内容数（N-42）
卒後年数 中央値[範囲] a	3年 [3-8]
性別	男性 28人（66.6%）｜女性 14人（33.4%）
出身大学 b	島根大学 25人（59.5%） **その他　17人（40.5%）**

県内定着率

専攻医・修了者42名のうち、37名 が現在も島根県内の医療機関で勤務している（2025年3月時点）。

県外出身者を含めた多様な集団でありながら、県内定着率は88.1% という極めて高い水準を達成している。



1．定量成果：多様な人材の獲得と圧倒的な定着率

対象となった**専攻医・修了者 42名** であった。参加時の中央値は、卒後3年目（範囲 3-8）であり、男性が28名（66.6%）,女性が14名（33.4%)であった。また、40.5%（17名）が県外の医学部出身者であった。

多様な若手医師が本プログラムを選択している。

2. 定性成果：地域医療インフラとしての機能

「定着」は、単に県内に籍があるという意味ではない。多くの修了者・専攻医が、へき地・中小病院・診療所など、地域医療の中核となる現場で診療を担い続けている。 また、診療にとどまらず、**教育、医療安全、多職種連携、地域包括ケアといった領域にも継続的に関与し、地域医療の持続可能性を支える役割を果たしている。**今後、参加者を対象に半構造化インタビューや燃え尽き等について調査する予定である。

3. 結論：持続可能なシステムの確立

本事業は、「養成して終わり」ではなく、地域に根づき、**地域の医療を支え続ける人材を育てる仕組みとして機能**している。

なお、この高い定着率と教育モデルの成果については、国際トップジャーナル JGIM に論文投稿中であり、科学的にもその有用性を検証・発信している。

a：プログラム参加時の医師免許取得後年数に基づいて算出。本プログラムは主に専攻医（卒後3年目）を対象としているが、内科研修後等の中堅医師も支援している。
b：医学部の所在地をへき地背景の指標として使用した。島根大学卒業生、「その他」は県外大学卒業生を指す。
c：データ収集時点で、島根県内の医療機関（大学、地域病院、診療所を含む）内で勤務していることと定義した。